

おだいとう

# 尾岱沼地区

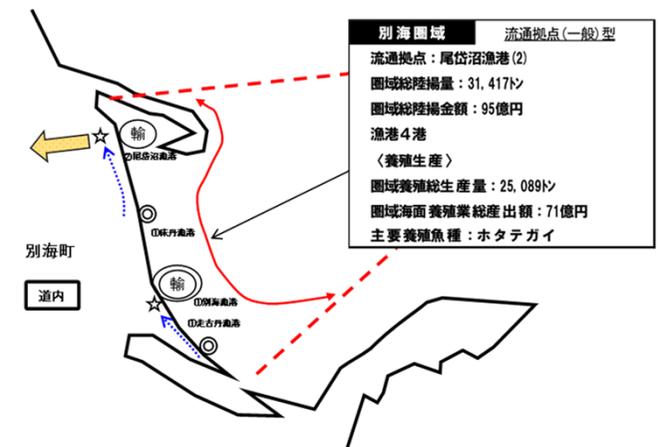
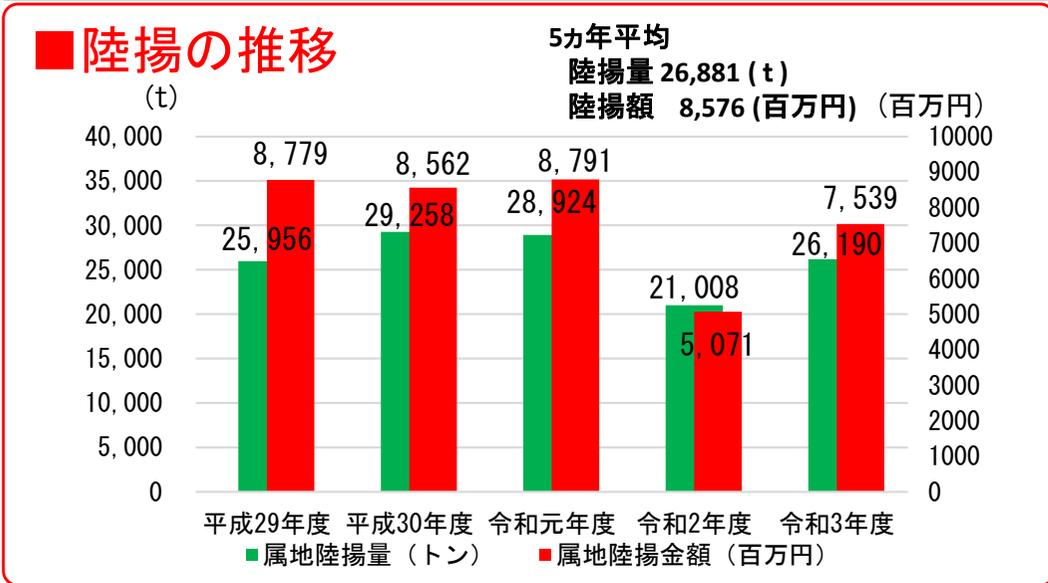
## 海岸保全施設整備事業(高潮対策事業) 期中評価

# 尾岱沼地区の概要(1)

- ・尾岱沼地区がある別海町は、北海道の東部、根室管内の中央部に位置し、町の人口は約1.4万人(R6.9現在:別海町人口・世帯数統計表より)であり、ホタテガイ、サケを主体とした水産業及び加工業が基幹産業である。
- ・当地区は別海圏域の流通拠点漁港としての第2種尾岱沼漁港を有し、道内においても重要な水産供給基地を担っている。



- ・ 当地区の拠点となっている第2種尾岱沼漁港では、水産物の衛生管理に取り組み、別海圏域の流通拠点・輸送拠点漁港である。また、ホタテガイは米国、中国、台湾、韓国などへ輸出しており、イクラは東南アジアへ輸出している。
- ・ また、背後には加工場や直売場などの水産関係施設が立地している。



# 尾岱沼地区の背後の状況

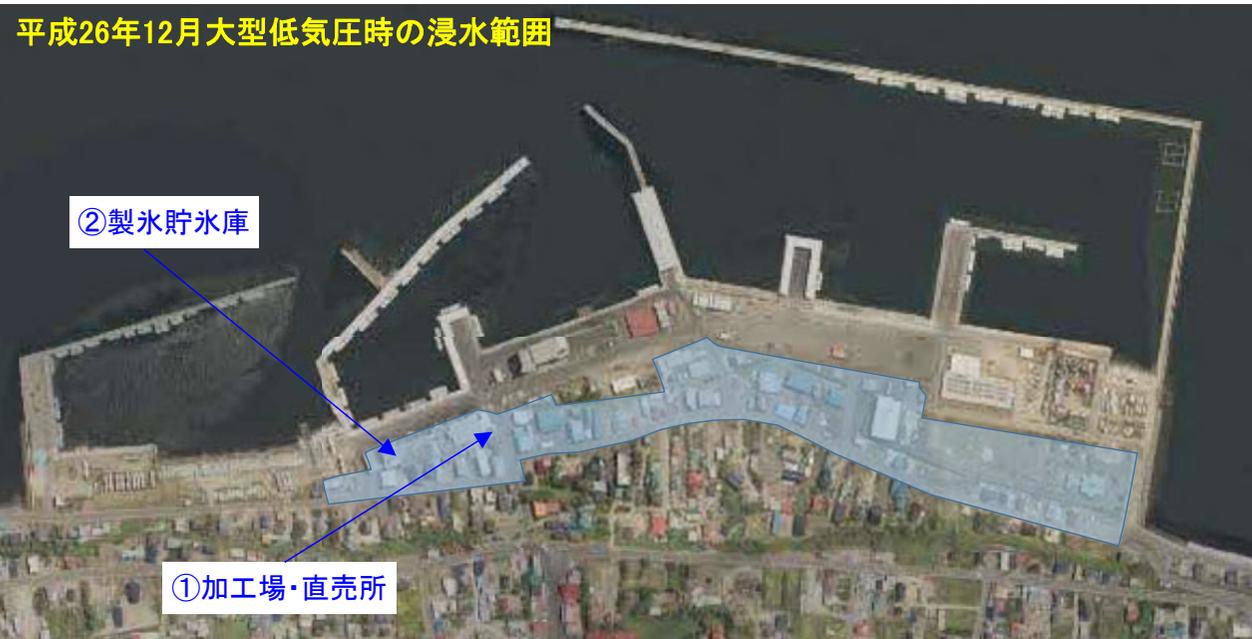
4

- ・ 当地区は背後には消防署や郵便局などの重要な公共施設があり住宅も密集している。
- ・ 海岸背後には漁業を営む集落や漁業関連施設が密集している。



# 尾岱沼地区における高潮被害

・当地区は近年、低気圧等来襲時の高潮により、背後の水産関連施設や家屋、並びに、集落内幹線道路(町道尾岱沼市街線、道道尾岱沼港春別停車場線(363号線))まで浸水被害が及んでいる。



H18.10の被害  
・住宅浸水:10軒  
・床上・床下浸水:4軒



## 【現状・課題】

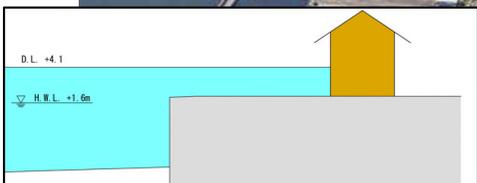
- ・ 当地区は近年、低気圧等により、背後の水産関連施設や家屋、集落内幹線道路まで浸水被害が及んでいる。このため、胸壁の整備をおこない、大規模災害発生時に地域住民の生命・財産への被害防止を図る必要がある。
- ・ 当該地区は千島海溝・日本海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に位置しており、今後30年以内にM7.8~8.5の地震が80%程度の確率で発生することが予想されている。当海岸におけるL1津波高はD.L. +3.6mと想定され、発生した場合には甚大な被害が想定される。

## 【整備計画】

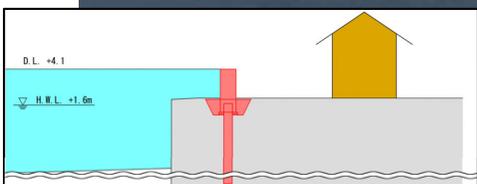
- ・ 胸壁の整備により、近年頻発している高潮や発生が予想されている地震・津波による浸水被害から地域住民の生命・財産の保全を図る。

## 【整備効果】

- ・ 海岸保全施設の整備により、高潮・津波による背後地への越波を防止し地域住民の生命・財産への被害防止を図る。あわせて、令和3年3月策定の漁港BCPと連携し大規模災害発生後の流通機能の早期回復を図る。



対策後



## 計画概要

【施設名】	【事業量】	
	今回評価	前回評価
胸壁	L=1,143m	L=1,140m
陸間	N=13基	N=12基
●事業費	: 4,341百万円	1,990百万円
●事業期間	: R3~R12	R3~R9

## 前回評価時(令和2年度)

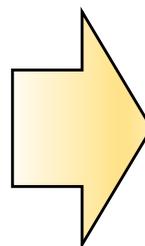
・事業費 1,990百万円(税込)

・事業期間 R3~R9

### 工種

胸壁 L=1,140m

陸閘 N=12基



## 今回評価時

・事業費 4,341百万円(税込) (23.51億円の増加)

・事業期間 R3~R12

### 工種

胸壁 L=1,143m

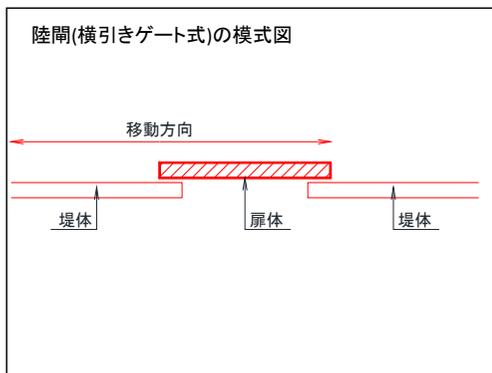
陸閘 N=13基

## 変更の概要

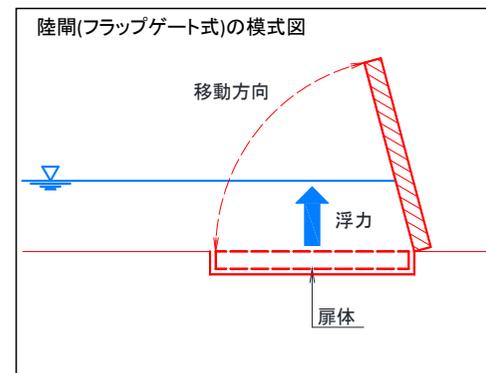
- ①自動化による陸閘形式の変更(横引きゲート式⇒フラップゲート式)
- ②陸閘の増設
- ③視界確保のための窓枠設置
- ④労務・資材単価、諸経費の増加
- ⑤その他の増加(補償対象物件の増加 等)

## ①自動化による陸閘形式の変更(横引きゲート式⇒フラップゲート式)

- ・当初、常時閉鎖を前提とした横引きゲート式による陸閘を計画していたが、漁業利用者との協議の結果、漁港利用上の使用状況を踏まえ、常時開放できる遠隔操作化または自動化による陸閘形式の検討が必要となった。
- ・陸閘の遠隔操作化および自動化の比較検討結果により、陸閘形式をフラップゲート式(自動式)へ変更し、これらにより事業費が増大した。



当初:横引きゲート式



変更:フラップゲート式

**自動化による陸閘形式の変更に伴う事業費の増加額: 9.36億円**

## ②陸閘の増設

- ・利用者との協議により、漁船の修理作業等に使用する車輛の通行路確保のため、船揚場背後の胸壁内外を通行する必要性が生じたため、陸閘の基数を「12基」から「13基」に増設(階段を陸閘に変更)したことにより事業費が増大した。



**陸閘の増設に伴う事業費の増加額：1.16億円**

## ③視界確保のための窓枠設置

・当事業における胸壁設置区間の背後にはみなと公園が立地しており、地元との協議において、胸壁内外の視界確保による公園利用者の防犯対策及び胸壁前面交通の視認性向上によるの安全性確保の観点から、胸壁へ窓を設置することにより事業費が増大した。



**視界確保や防犯のための窓枠設置に伴う事業費の増加額：2.00億円**

## ④労務・資材単価、諸経費の増加

年	建設費指数 (土木部門・札幌)	
	指数(H27=100)	前回評価時(R2)との比
R2	106.1	
R3	111.1	1.047
R4	123.7	1.166
R5	136.3	1.285
R6以降	145.9 (最新値である R6.9値を準用)	1.375

**労務・資材単価、諸経費の増加に伴う事業費の増加額: 10.33億円**

## ⑤その他の増加(補償対象物件の増加、地盤沈下対策のための構造形式変更(階段部)等)

**その他の増加: 0.66億円**

## ○定量的な効果（貨幣化した効果）

### 【浸水防護便益】

「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版)」(平成16年6月)(令和6年2月一部更新)  
(以下「指針」という)を引用し作成。

#### ・ 一般資産等の被害軽減便益

浸水想定地域内の一般資産(家屋、家庭用品、自動車、事業所)、農漁家資産、事業所資産、公共土木施設、公益事業の資産を評価し、被害率を勘案して被害軽減額を算定。

## ○定性的な効果（貨幣化が困難な効果）

- ・ 精神的被害の軽減…………… 被災による精神的ショックや疲労、被災を受ける意識からくる不安
- ・ 人的損失被害の軽減…………… 被災時の死傷者の逸失利益、治療費等に費やす医療費
- ・ 時間的損失被害の軽減…………… 道路交通遮断による被災箇所への救援遅れ、生活への支障
- ・ 道路通行の安全性の確保 …… 被災時における道路通行の安全性
- ・ 新たな企業進出の期待 …… 災害に対する安全性から水産関連や他産業の別海町への進出
- ・ 水産業の早期復旧 ………………被災時における水産業の早期復旧

事業費	(1, 990, 000千円) 4, 341, 000千円
整備期間	(令和3年度～令和9年度) 令和3年度～令和12年度
年間便益	(2, 402, 405千円) 3, 306, 232千円
総費用 (C)	(1, 701, 159千円) 4, 110, 792千円
総便益 (B)	(39, 218, 531千円) 56, 132, 153千円
費用便益比 (B / C)	(23. 05) 13. 65

※括弧書きは、前回評価時(令和2年度)の値

浸水防護便益（現在価値化） B	561.3億円
総費用額（現在価値化） C	41.1億円
整備期間	令和3年度～令和12年度
費用便益比（B／C）	13.65

## 総合評価

当海岸は、北海道東部根室沿岸のほぼ中央の野付湾内に位置し、野付風蓮道立自然公園内でもあり、自然に恵まれた美しい景観が多い地域である。また、当海岸背後には、尾岱沼漁港で漁業を営む集落が形成されており、水産関連施設や家屋等が密集している。

当海岸は漁港の建設により前浜での海岸保全機能は維持されているが、近年の低気圧等来襲時の高潮による漁港の岸壁等からの越流により、背後の家屋、緊急輸送道路、および水産関連施設まで浸水被害が及んでいる。

本事業は、胸壁の整備を行うことにより、高潮・津波による背後地への越波を防止し、地域住民の生命・財産への被害防止を図ること、令和3年3月に策定した漁港BCPと連携し大規模災害発生後の流通機能の早期回復を図ることを目的としている。計画通り進捗していること、地元からの施設整備への要望が強いこと、費用便益比率が1を超えていることから、事業の継続が妥当である。